第 33 号　2017 年 2 月 22 日発行

CSRの和

2017.2
33

特集 1

インタビュー

鎌仲ひとみ監督

一人ひとりが小さなことをやっていくってことが大事

特集 2

インターンシップ修了報告

株式会社大川印刷

インタビュー

HITOMI KAMANAKA

鎌仲ひとみ

一人ひとりが小さなことをやっていくってことが大事

私、インターンシップ生の髙橋が、ぶんぶんフィルムズ 鎌仲（かまなか）ひとみ監督にインタビューをさせていただきました。
鎌仲監督たちが主催する「3＋1（サンタスイチ）」のイベント内容をもとに、鎌仲監督の活動についてお伺いしました。

――先日のイベント“NO MORE HIBAKU MEETING”では、福島からの被ばくを避けて避難した人と、不安を抱えながらも様々な事情から福島に残った人の間に生まれた「分断」を乗り越えていくということを趣旨としていましたが、イベントを終えた感想をお聞かせください。

一言で分断を乗り越えるといっても現実には、人の気持ちを変えることはできないなってずっと思っていました。本当は優しい気持ちがあるんだけれど、それを表現することがなかなか難しい。だからこの前のイベントでは、そういうこともまず口に出して言ってみようと考えました。話さないで、もやもや持っていたら、その状態がずっと続いて、そのうち投げ出すということが起きてしまうけれど、仲間と一緒にそのもやもやをシェアしてみれば、じゃあ私はこれができるかもしれないという風に、ちょっともやもやが晴れて、そこから別のステージに進める。分断を乗り越えるっていうのは、「私はそれをどう受け止めているのかなあ」ということを、もうちょっと一人ひとりの中で落とし込むということだと思います。先日のイベントではそれを目的としていましたが、一人ひとりのなかでその変化が起こせた手ごたえを感じることができました。皆さんの反応から、「すごくよかった。自分の思っていたことが話せた。」というふうに。あの会は、すごく小さい集まりだったけれど、自分たちのことをわかってくれている人たちがいるんだなということを自主避難者の人たちにも伝えることができて、「すごく久しぶりに笑った、温められた」と言ってくださって。ちょっと冷えていたと思うんですよね、心が。それをみんなでほわっと包んで、温めることができたかなと思います。

――私はイベントで、埼玉に自主避難された方の「私は援助をもらっていることに罪悪感がある」という打ち明けがすごく心に刺さりました。なかなかそういうものって口から出すことが大変だと思うのに、あの場だったからこそいえたのかなと思うと、すごくいいイベントだったように感じました。

そんなに罪悪感持たなくていいんだよという感じなんですけどね。安全だとか安心だとかというふうにその場所が思えたら、そういうことも話せるんです。本当はもっと立場の違う人にも来てもらいたかったのですが、「（自分の行動が批判されるのが）怖くて来られない」という方もいました。この問題は、すごく深い分断なので、一遍には乗り越えられないかもしれない。けれど、みんな相手を憎んだり、不幸になれと思っていたりするわけではなく、ほとんどの人は優しい気持ちを持っている。この優しい気持ちが外に出てみんなに伝わることが今は大事なんです。そういう場づくりをしています。

――今後のイベントも話し合える場にしていく予定ですか？

今回の試みがすごくよかったので、もうちょっと深めて、3月にも同じようなスタイルでやろうかなと思っています。

テーマは、やっぱり継続的に。だから違う立場の人にも来てもらいたいと思っています。会場でも言っていたように、「NO MORE HIBAKU」なんですけど、私たちのニーズは（「○○したい！」「○○がいい！」というような肯定的な）YES だから、そこの歩み寄りの部分をみんなで探ろうって、そういう集まりにしようと思っています。被ばくは確かに嫌だけれど、その先にある自分たちのこうあってほしい

“NO MORE HIBAKU MEETING”

自主避難者の住宅支援打ち切り問題～分断を乗り越えるあらたな試み～

2016年12月10日（土）@LOFT 9 Shibuya

イベント会場の様子

このイベントでは、「分断を乗り越え、人々が対話する場」として、全国の人々と中継しながら、3.11福島原発事故を受けて自主避難をされた方のお話を聞き、その人にとってのニーズや、話を聞いて感じたことをヒントとなるカードを使いながら共有していきました。参加者それぞれが抱える苦しみや思いなどを温め合うような雰囲気があり、ひとつの和がそこに出来上がっていたように感じられたイベントでした。

話し合いのヒント「ニーズカード」

鎌仲ひとみ監督作品

ヒバクシャ
世界の終わりに
（2003）

六ケ所村
ラプソディー
（2006）

ミツバチの羽音と
地球の回転
（2010）

内部被ばくを
生き抜く
（2012）

小さき声のカノン
（2014）

未来も考える。そこがはっきりと見えれば、みんな元気が出ると思うんです。原発はだめ、だけじゃなくって、「ほら、これでもう大丈夫だよ」っていうものがあれば。自然エネルギーの可能性が実はすごく現実的なんだ、お金にもなるんだっていうことも、伝えることがすごく大事だと思います。

――鎌仲さんは映画監督のお仕事をしながらこういうイベントを開催されていますが、大変ではありませんか？

そうですね。でも、映画を作ることが最終目標ではないんです。ただ映画をつくってみんないい映画だったねって終わりになるのではなくて、映画を観た人たちがそれを自分の中で消化して、それを何かアクションに結び付けていただきたいなと思っています。私の創作活動として「映画をつくること」が真ん中にあるのですが、ただそれだけではなくて、その先にある、何かいい変化が起きることを期待しているんです。だから、映画以外でもそれができるんだったら、いろいろなやり方でそれをやります。

人間は、意識が変わらないとライフスタイルの変化もアクションも出てこないので、映画をみることで意識が変わり、何かを考えて、何かをする。変化やアクションにはそういうプロセスが必要なんです。だから、映画はその中のひとつの重要なプロセスだと思っています。

――鎌仲さんの映画を観させてもらって、刺激をいただいて、動き方を変えなければいけないと感じました。

ありがとうございます。それまで私は受け皿が必要だと思っていました。気が付いて、何ができるだろうって思ったとき、もう既に行動している人がいるからそこに行ってちょっとお手伝いするだけでも違うんじゃないかと。でも実はみんなすごく力を持っていて、いつか使おうとは思っているのだけれど、使わないままに日々が過ぎていたり、自分ができることに気が付いていなかったりするだけのように最近強く感じます。だからその力を使ってみたらどうかなと。そういう意味ではすごく可能性とかポテンシャルが私たちにはまだまだあると思うんです。

――大川印刷では印刷物を通して社会貢献活動を行っています。鎌仲さんも、映像作品やイベントを通して社会活動をされていて、そういう活動は、意識して続けなければいけないと思うのですが、鎌仲さんが活動をするときにここを軸にしている、というものがあれば教えてください。

私が何か「しよう」とすると、すごく難しいんです。楽しいテーマじゃないし、厳しい重いテーマだから。でも、それは、私がやらなければ誰もやらない。だからやる。そうすることがささやかですけど、変化につながるというふうに信じています。

本当に小さい変化かもしれないですけれど、それは必ず起きる、無駄じゃないと思っていて、そういう一人ひとりが小さなことをやっていくってことが大事かなと思っています。「私は私ができる小さな変化を作り続けていく」っていうか。ささやかだとは思うけれど、ささやかであることが大事なんです。たとえば首相がドカンとやることよりも、普通の人、一人ひとりが小さなことを積み重ねていくことが一番大事なんです。私のやっていることはその中のひとつ。それはやっていく価値があると思っています。伝われば反応がある。実際に私の映画をみて、動いてくださる方もたくさんいます。変化が共有されていくことも、すごく力になる。仲間づくりになっています。

左から髙橋、鎌仲監督、サポートして
いただいた営業部斉藤さん

映画監督 ドキュメンタリー作家
鎌仲ひとみさん

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー映画制作現場へ。90年最初の作品「スエチャおじさん」を監督、同年文化庁の助成を受けてカナダ国立映画制作所へ。93年からNYのペーパータイガーに参加して、メディア・アクティビスト活動。95年帰国以来、フリーの映像作家としてテレビ、映画の監督をつとめる。
2011年全国映連賞・監督賞受賞。

映画の自主上映会・DVDのお申し込み
鎌仲ひとみ公式サイト
http://kamanaka.com/

インターンシップ修了報告

インターンシップ生髙橋は、12 月で大川印刷でのインターンシップを修了いたしました。
所属ゼミの影山摩子弥教授と受け入れ先である株式会社大川印刷 大川哲郎社長からコメントをいただくとともに、ここに修了報告をさせていただきます。

横浜市立大学教授／ CSR センター長
影山 摩子弥（かげやま まこや） 様

インターンシップは、企業にとっては、採用活動の一環であったり、人材育成ノウハウの形成につながったりする一方、学生にとっては、仕事の現場を体験することを通して、自らの適性や志向性を把握し、進路や人生を考える貴重な機会となります。

ただ、CSR を研究する影山ゼミの場合、それにとどまりません。大川印刷さんは優れた CSR 企業であり、学生は良質な CSR を体験でき、またとない生きた勉学の機会になります。髙橋の場合、『CSR の和』の企画を担うことによって、大川印刷さんが『CSR の和』を発行する意味やなぜその内容なのかを考えることになり、CSR の必然性を実践的に理解することができたはずです。大川印刷さん、ありがとうございました。

株式会社大川印刷代表取締役社長
大川 哲郎（おおかわ てつお）

髙橋さんは、私の授業を受けてインターンシップを決めた、初めての学生さんでした。

最初はどのようなゴールを目指したら良いか分からず、社長同行後は日常業務を黙々と手伝う日々でした。

私の中では、髙橋さんが小柄でありながら、ストリートダンス部で頑張っているその姿と、仕事に対し、直向きに向かう姿勢がオーバーラップしていましたが、その直向きさが周囲の信用と信頼を深めていったと感じています。

鎌仲監督のインタビューにあたっては、映画の下調べから鑑賞、そしてイベントの参加を経て、理解を深めることや、共感力が相互理解や成長につながることを体感したと感じました。ご苦労様でした。

インターンシップ生
横浜市立大学
髙橋 碧衣（たかはし あおい）

2016 年 12 月をもって、4 か月間のインターンシップを修了させていただきました。右も左もわからない私に、従業員のみなさんは仕事を教えてくださり、時には楽しくお喋りもしていただき、いつも、優しさ、温かさを感じておりました。

大川印刷の「本業を通じた CSR」を間近で見させていただく中で、製品への思いや、社会への思いが、環境配慮型製品や良い品質の製品となり、それがお客さまにも伝わり、社会から信頼される会社となっていることを学びました。そして、周りの従業員さんを見習い、「想い」を意識して、今号にて鎌仲監督へのインタビューをさせていただきました。そのインタビュー中の鎌仲監督の言葉からも、大切にしている強い「想い」を感じました。インターンシップ全体を通して、想いを持って仕事することがどれだけ重要で、そしてどれだけ誇らしいものであるかを知ることができました。

この 4 か月間での経験や学ばせていただいたことを糧に、人や社会に貢献できる人間になれるよう励んで参ります。本当にありがとうございました。

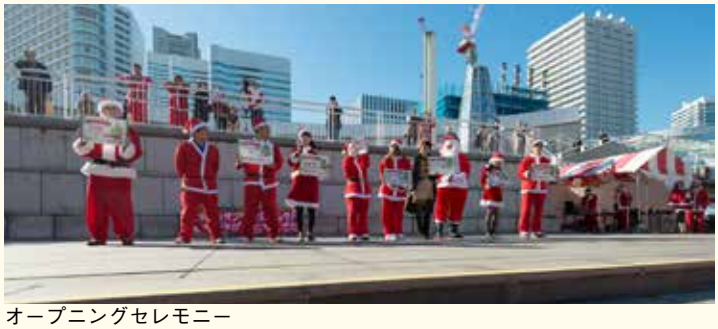
2017 新年今年もよろしく !!　初詣～新年会

ご祈祷後みんなで記念撮影

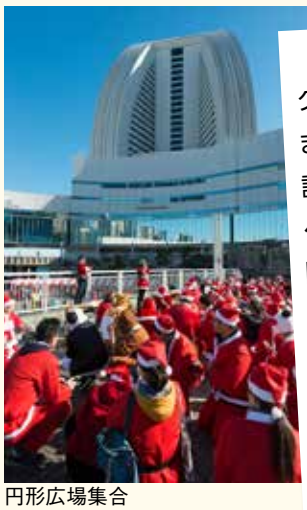
1 月 7 日（土）、恒例になったご祈祷を伊勢山皇大神宮で受け、その後、大ど根性ホルモン様にて新年会を行いました。伊勢山皇大神宮では、横浜ひとまち百景で新たに神宮の鳥居のイラストを描かせていただいたことを受け、複製画の贈呈をいたしました。大ど根性ホルモン様では、横浜クイズで盛り上がり、お料理も 2016 年に発行された『横浜の食卓～ど根性レシピ～』に掲載されているものから提供していただき、身も心も充実した時間を過ごせたと思います。みんなで気持ちを新たにスタートすることができ、清々しい新年となりました。（宇賀神）

横浜クイズに挑戦

横浜サンタプロジェクト 2016


オープニングセレモニー

訪問サンタ出発セレモニー


円形広場集合

2016 年 12 月 10 日（土）、横浜サンタプロジェクトがパシフィコ横浜プラザ円形広場で開催されました。当社からは 13 名参加し、清掃サンタと訪問サンタに分かれ、子どもたちに笑顔を届けるべく活動しました。訪問サンタでは、横浜市内の障がい者施設に赴（おもむ）き子どもたちと名刺づくりを行い、訪問した自分たちも楽しくとても貴重な体験ができました。地域に根差した CSR 活動の大切さや、嬉しさ、楽しさも実感することができました。後日、訪問した施設の子どもたちからお手紙を頂き、参加者一同とても幸せな気持ちになれました。（佐々木）

社会福祉法人 試行会 ぽらいと・えき にて

名刺づくりの様子

訪問サンタメンバー

830 人のサンタが集合 !!

横浜の食卓　～ど根性レシピ～

この度、当社で「横浜の食卓」ど根性レシピの印刷・製本をお手伝いさせていただきました。
濱の料理人である椿直樹さんの出版に携わることができとても光栄でした。今回の出版費用は、クラウドファンディングにより公募し、最終的に 212 名の方に支援いただき 333 万 9000 円が集まりました。横浜を地産地消で盛り上げるということに多くの方の賛同をいただきました。椿さんから、「是非、大川印刷さんに印刷をお願いしたい」というありがたいお言葉をいただき、書籍の用紙はすべて FSC 森林認証紙を使用し、LED-UV 印刷機でノン VOC インキを使用して印刷しました。1 人でも多くの方に読んで活用いただければと思います。（宝来）

ど根性レシピ本

食材の説明をする椿さん（左）

オープンファクトリー

2016 年後半、当社のオープンファクトリーには多くのお客さまにお越しいただきました。9 月に「WE21 ジャパン」様、10 月には「とつカレッジ～戸塚のいいとこ学び隊～」ご一行様。こちらは区民の方が地域に関心をもつきっかけづくりを目的とした地域入門講座のバスツアーに当社の見学を盛り込んでいただきました。11 月は「横浜市温暖化対策統括本部」様、そして 12 月は「藤沢高等自動車学校」様にお越しいただきました。工場見学後に皆様から「印刷物に対する認識が変わりました」「CSR 活動の熱意を感じました」「とても楽しかった！」「とても感動した！」「うちもあんな活動してみたい」等、ありがたくとても嬉しいお言葉をいただきました。これからもお客さまに満足していただけるオープンファクトリーを従業員一同で目指していきます。皆様のお越しをお待ちしております。（伊東）

工場見学風景

とつカレッジ～戸塚のいいとこ学び隊～ご一行様

藤沢高等自動車学校様

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

昨年、12 月 17 日（土）に 4 会場で行われた「第 38 回ユニセフ　ハンド・イン・ハンド」に当社から 4 名参加してきました。
相模原市内の相模大野駅で街頭募金活動を行いました。風は冷たいながらも、好天にも恵まれ、市内 5 校の中学生と共に、道行く方々へ世界の子どもたちへの支援を呼びかけて来ました。（中橋）

伊勢丹相模原前

となりのパートさん

第 7 回目の連載は、北御門（きたみかど）さんが後藤さんを紹介してくれます！
パン作りの名人、大川印刷のバタ子さんこと後藤真由美さんは、仕事に取り組む姿勢がとても前向きでありながらも謙虚にひたむきに日々コツコツと真面目に取り組む努力家です。その姿勢を崩さず貫く姿に私は感動し、そんな後藤さんを尊敬しています。最近では有志の防虫対策委員会にも参加され益々ご活躍される後藤さんです。（北御門）

北御門さん（左）と後藤さん（右）

編集後記

2017 年新しい年がスタートしました。去年 11 月 9 日創立記念日に 135 周年と、くぎりの良い年に従業員一同元気に新年を迎えました。1 月には NHK「サキドリ！」で、デザイナー太刀川さんが特集され、大川印刷の紹介もバッチリしていただきました。
そして今年も、2 月 22 日には CSR 報告会（詳細は下記 HP で）を開催しました。
進化していく大川印刷！今年もよろしくお願い致します。（岡田）

Facebook、twitterでリアルタイムコミュニケーションを展開中!

リアルタイムで大川印刷や横浜の情報が受け取れます！
Facebookページ：http://www.facebook.com/OhkawaPrinting ／ Twitter：http://twitter.com/OhkawaPrinting
インスタグラム：https://www.instagram.com/ohkawaprinting/
YouTubeチャンネル：https://www.youtube.com/channel/UCeUL0X1lKDqUM4yOA3C_gJQ
大 川 社 長　ブログ：http://ameblo.jp/gibson-345 ／ Twitter：http://twitter.com/tetsuo_ohkawa
インターン生　ブログ：http://ameblo.jp/ohkawa-internship/

instagram　YouTube

編　　集　大川印刷　CSR委員会
発　行　人　大川 哲郎
編　集　長　岡田 羊右（ようすけ）
発　行　元　株式会社大川印刷

◆本社・工場　〒245-0053横浜市戸塚区上矢部町2053番地
TEL：045-812-1131（代）FAX：045-812-1135
◆横浜営業所　〒220-0011横浜市西区高島2-14-12 ヨコハマジャスト2号館3F
TEL：045-441-2011（代）FAX：045-441-2014
URL：http://www.ohkawa-inc.co.jp
お問い合わせ・ご意見・ご感想は…
magokoro@ohkawa-inc.co.jp まで

印刷事業において発生するCO_2全てをカーボンオフセット（相殺）した「CO_2ゼロ印刷」で印刷しています。また、FSC®森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場です。また、メディアのユニバーサルデザインを推進するNPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会が「より多くの方が使いやすく見やすいメディア」であると認めた印刷物です。
2017.2.2000